

						学校自己評価		学校関係者評価
評価項目	評価指標	具体的取組	学校評価アンケート（職員・児童・保護者） 令和6年11月下旬実施 回答数職員〇名、保護者〇名、児童〇名 回答種（％） A・・・そう思う B・・・だいたいそう思う C・・・あまりそう思わない D・・・そう思わない	回答者別	総合評価	評価内容	評価	評価内容
か う く	1 児童は、授業内容を理解していますか。	○ 主題研究等を通した授業の工夫改善 ○ 教科等を問わず1割のわさびの授業の実践（児童が主役の授業）	児 62.9 29.4 5.2 2.6 保 27.5 55 17.5 0 教 11.1 88.9 0 0	児A 保B 職B	B	○ 「子どもたちが主役の授業」となる学び合いのある授業づくりを通して、主体的に学び、確かな学力を身に付けた児童の育成に努めた。 ○ 児童が自分で考える「課題設定の時間」を中・高学年で週1回実施し、家庭学習の充実につなげた。 ○ 毎週、キュビナの時間を設定し、繰り返し復習に取り組ませることで、取組率の向上につながった。宿題等での活用により、職員の負担軽減につながった。 ○ 図書館サポーターによる給食中の読み聞かせや図書館環境の整備により、児童の読書意欲の向上につながった。 ● 個に応じた指導の充実を図る必要がある。 ● 学力向上に向けた主題研究を今後も継続し、授業力向上を図る必要がある。	A	○ 「子どもたちが主役の授業」を継続して実践していったほしい。 ○ 児童が自分で考える「課題設定の時間」の取組はとてもよいと思う。児童が自発的に「考える」時間を多く設定するとよい。 ○ AIドリル等の活用を継続してほしい。 ○ 複雑な折り紙を、ICTを活用して作っている児童がいた。ICTが有効に活用されている。 ● 読書の冊数は、同じものを3回読んでも3冊にカウントしてほしい。 ● 児童が「なぜだろう」という疑問をもつ教育を充実させる必要がある。
	2 児童は、家庭学習の習慣が身に付いていますか。	○ 家庭学習の充実（課題を児童に考えさせる取組）	児 69.2 26.9 4 0 保 22.5 67.5 7.5 2.5 教 22.2 55.6 22.2 0	児A 保B 職B				
	3 児童は、できない問題ができるようにあきらめずに練習していますか。	○ 朝の活動等でのAIドリルキュビナの取組	児 45.7 43.8 6.6 4 保 30 32.5 30 7.5 教 22.2 55.6 22.2 0	児B 保B 職B				
	4 児童は、家読週間での読書に取り組んでいますか。	○ 図書館サポーターや家庭と連携した図書館教育の充実 ○ 読書活動の充実（読書目標到達者80% 低120冊 中100冊 高80冊）	児 44.8 31.9 11.5 11.9 保 40 40 17.5 2.5 教 33.3 44.4 22.2 0	児A 保B 職B				
や や く	5 児童は、楽しく学校に通っていますか。	○ スクールワイドPBSの考えをもとにした望ましい行動の育成	児 67.5 24.8 5.2 2.6 保 70 25 2.5 2.5 教 44.4 55.6 0 0	児A 保A 職B		○ スクールワイドPBSの考え方を、機会あるごとに伝え、共通理解を図って取り組むことができた。 ○ 教育相談を定期的にとすることで、児童の困り感を早期に解決することができた。 ● ウエルビーングな学校づくりのために、全教職員でさらに共通理解・共通実践を図っていく必要がある。		○ ウエルビーングな学校づくりの取組はとてもいいことである。今後も継続していったほしい。さらに、保幼小連携を充実させるとよい。 ○ いじめ不登校対策委員会の取組はとてもいいと思う。継続してやっていったほしい。 ○ 登校中に、優しい言葉かけをしている上学年を見かけます。学校での取組が生きているのだと思います。
	6 児童は、友達にやさしく、思いやりのある態度で接していますか。	○ いじめ不登校対策委員会の充実 ○ 教育相談の定期的実施 ○ 全校朝会での講話の充実 ○ あたたかいことばを集めようの木の実践（児童同士の啓発）	児 45.9 46.4 7.8 0 保 45 52.5 2.5 0 教 11.1 77.8 11.1 0	児B 保B 職B				

やんぱん	7 児童は、自分から進んであいさつや返事をしていますか。	○ あいさつがんばり週間（全職員による見届けと称賛シール）	児 保 教		児A 保B 職B	B	○ 全職員による見届けと称賛シールの取組により、自分からあいさつをする児童が増えた。 ○ 日常指導、重点指導により廊下歩行・トイレのスリッパの並べ方が向上した。 ○ 石山商店街（模擬販売体験活動）により、児童の自主的な取組につながった。意欲・態度面の向上が見られた。 ● 規範意識の定着では、繰り返し、継続して、全職員で取り組んでいく必要がある。	A	○ 係活動・委員会活動・クラブ活動における児童の自主的な活動はとてもよいことである。今後も、自主性を伸ばしてほしい。 ● あいさつは、家庭環境が影響しているのではないか。家庭への啓発が必要ではないか。
	8 児童は、自分から進んで学校のきまりを守っていますか。	○ 廊下歩行・トイレのスリッパ並べ月間	児 保 教		児B 保B 職B				
	9 児童は、特別活動の充実により課題解決に向けて取り組む態度は育っていますか。	○ 係活動・委員会活動・クラブ活動における児童の自主的な取組 ○ 石山商店街（模擬販売体験活動）の取組	児 保 教		児A 保B 職B				
たぐまっく	10 児童は、外で遊んだり、進んで運動したりしていますか。	○ 外遊びの奨励 ○ 運動環境の充実 ○ 運動月間（なわとび・一輪車・竹馬）の設定	児 保 教		児A 保B 職B	B	○ 運動月間の設定により、児童の運動意欲の向上につながった。 ○ 運動環境の充実により、外遊びをする児童がほとんどである。 ○ 全校朝会の講話によって、立腰意識の高揚につながった。 ○ 中学校の栄養教諭を招いての食育授業は、「食べる力」＝「生きる力」を育む機会になった。 ● 立腰の姿勢について、各学級で定着するための指導を継続してする必要がある。 ● 個に応じた給食指導を継続して指導していく必要がある。	B	○ 外で遊ぶ児童が多いのは、とてもいいことである。四季に応じた自然環境の中で過ごすのが一番である。 ○ 食育の充実で、「弁当の日」の取組は意義があるので、継続して取り組んでほしい。 ○ 給食指導では、アレルギー等への対応もとられていてよいことである。 ● 天候に関わらず、歩いて登校させる保護者が増えるといい。保護者への啓発が必要である。
	11 児童は、座っているとき、立腰の姿勢ができていますか。	○ 全校朝会の講話による立腰意識の高揚 ○ 立腰週間の設定	児 保 教		児B 保B 職B				
	12 児童は、自分で決めた量の給食を残さず食べていますか。	○ 食育の充実（栄養教諭を招いての食育授業） ○ 学担による給食指導の充実	児 保 教		児A 保A 職B				
くらんぱん	13 PTA 活動など学校と家庭・地域との連携が図られていますか。	○ 学校運営協議会の充実 ○ 読み聞かせボランティア・紙芝居ボランティアの活用 ○ Sigfy の活用	保 教		保A 職B	A	○ 学校運営協議会で、よりよき学校にするための熟議をし、学校運営に生かすことができた。 ○ Sigfy の活用により、スムーズな伝達やペーパーレスにつながった。 ○ 各種通信、ホームページ等で教育活動の様子を発信することにより、家庭や地域の理解や協力を得ることにつながった。 ● 情報発信を全職員でさらに啓発していく必要がある。	A	○ 保護者や地域への情報発信等がよく図られていると思います。 ○ 今後も、Sigfy の活用をさらにしてほしい。 ● 体験的活動を充実させるために、地域の人材を活用する必要がある。 ● 学校行事では地域の協力が今後も必要である。
	14 学校便り・学級通信・ホームページ等で学校・学級の様子を知らせていますか。	○ 定期的な学校便り・保健だより・学級通信の発行 ○ 定期的なホームページの更新	保 教		保A 職A				